

---

# タンス少女

森下しあ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

タンス少女

### 【Zコード】

Z3361P

### 【作者名】

森下しあ

### 【あらすじ】

春が訪れ、引っ越ししてきた少年「片桐祐太」が借りた駅から徒歩1時間以上の格安物件のおんぼろアパートの一室。そこには謎のタンスが置かれていた。その中からこれまた謎の美少女が…。しかし、その少女の正体は…。

## タンスから女

### ——ガタンゴトン

景色が流れる。見渡すかぎり家、家、家。午前6時、まだ眠気に包まれている静かな住宅街。今日から俺はここに住むことになった。  
…小さな駅が見えてきた。

駅をでて歩くこと約一時間。なんて不便なところ…。そう思いつつもなぜかこの空気が気に入つた。しかし、今は春。重い荷物を運びながら一時間も歩けばしだいに汗ばんでくる。早く家に着きたいと思いつし足をはやめた。

「ふーっ。着いたー。」

達成感に思わず口に出してしまつた。そして、このボロアパートが俺の家だ。形容の仕様のないぐらいホントに古い。全体的に茶色っぽいアパートの鉄の階段を登る。

手前から一番田、じつやうじが俺の部屋らしい。

### ——ガチャ

さびた金属音がした。鍵はほんとに大丈夫なのかといつしつこんをする前にドアノブが取れそうだ。

狭い玄関に、やはり全体的に茶色っぽい部屋。そして、タンス…。

「つて、タンス！？」

…少しツツコんでしまつた。俺はもしかしてツツコミ属性なのか…。とりあえず、開けてみよう。しかし、このタンスはボロアパートには似合わない立派な造りで、美しく、不思議な感じがした。まるで、何かが飛び出してきそうだ。そう思いながら吸い込まれるようにタ

ンスの取つ手を握つた。

タンスの引き出しの上から一段目。勢いよくあけると、なんとそこには…

「お、お、おんな！…！」

このアパートに来てから10分も経っていないのに一回も叫んでもしまつた。隣の住人には変なやつが越してきたと思われていることだろう。とくにこの薄そうな壁、ヤバい。しかし今はそれよりヤバいのだ。もうマジヤバな訳だ。

深呼吸を何回かし、もう一度タンスをみてみた。やはり女の子がいるのは揺るがない事実らしい。よく見ると、この女の子、凄く可愛い。茶色くて長いいかにもサラサラしていそうな髪の毛。顔はきれいに通つた鼻筋。人形のように長いまつげ。ふるつとして形の良い脣。白いきれいな肌に程よく細い腕と足。完璧だといつてもいいくらい。しかし…服は、着て、いない…だと…？とりあえず、ここから出してあげよう。…別にいやらしいことを考えていいる訳じゃない。など自己弁護にはしり、少女をガン見する俺。冷静に考えると…いや、考えないでもキモイ。だめだ、冷静になるな、俺。

そうすると俺は無意識に少女を持ち上げた。

「うつ…」

なんだこいつ、予想外に重い…！…俺はよろめいた。

——ドンッ

「重つ…！」

なんと少女が俺の上に乗る形で倒れてしまった。普通の思春期の男子なら当然ウハウハな状態であろう。しかし俺はそれどころではない。別にホモでもなんでもない。なぜならこいつがどんでもなく重いからだ！とにかく重い。まるで象に踏まれているようだ。本当

に象に踏まれたことはないが。

—ウイーン

「生体反応、感知しました。起動準備、開始。10秒前」  
ええええ????? 機械音に無機質なしゃべりかた、もしかしてロボット? なのか? そうだとしたらこの人間離れした重さも説明がつく。しかし、こんなに完璧な容姿をしたロボット、俺は見たことがない。現代の科学では決して不可能なはずだ。

「5秒前」と時限爆弾のようにカウントする彼女…。いや、むしろこれは時限爆弾!?俺は必死に避けようとする。しかし全く動こうとしない。

「4」  
何もできずに焦る俺。時間がだけが過ぎていく。

2

1

田をつぶつた。もはやこれくらいしか出来ない。

「起動、完了しました」

… どうやら爆発はしなかった。田をゆっくりあけると、彼女は動き出した。俺の上からじてわしき運んできた荷物の上に座った。しかも足を組んで。

「なにしてんの？お前」

容姿からは想像できないような話し方だ。しかも、裸だというのに  
はじらいもしない。機械だからなのか？

「それはこっちの台詞だ。だいたいここは俺の家だし、裸ってなんのプレイだよ！」

と思い切つてつっこんでみた。

「ふーん、あんたがこの家の主。どう見てもただのガキなんだけど。

意味分からんことを…。普段は少々のことを許してしまった俺だがすこしイラツとした。といつも、この状況だ。イラライラせずに居られるだろうか。俺はふっされた。

「いや、この家の持ち主ってか、借りてるだけ…。といつも、どちら様ですか？」

俺がまだ優しく聞いてあげると

「わたし? つーか、人に名前聞く前に自分から名乗つてよね！」

マジでムカつく。女ってみんなこうなのか。とにかく天才的ウザさだ、こいつ。しかし、まだまだ優しく俺は彼女に名乗つてやることにした。

「俺は、片桐祐太だ。お前は?』

「ふふふふ。超平凡な名前。わたしは、タイムワールドから来たロボットRF-64つていうの。」

…マジでなんなんだこいつは。手の込んだ電波さんなのか? だとしたら痛い、痛すぎる。それにしても一向に恥ずかしがる気配がない。なんか、こいつちか恥ずかしくなつてくるんだけど。

「あーそりなんですかー。」さすがに反応にこまつて棒読みになってしまつ。

「とにかく、服は着ないんですか?」これで、着てくれれば部屋から追い出せるんだが…。

「いやー、別に着てもいいんだけどね、長官が着てないほうが男は

「言つこときこてくれたるって言つてたからね…。」

「なんつーこと言つんだ。この顔でしかも上田遣い。確実にねりつて  
いる、この女。…そう分かっていてもかわいくて…。」

「そ、そういうのはたまに見るから良いんだよ。見えないからいい  
んだ。見えないから見たくなるものなんだよ。だから服着ろ。おね  
がいだから。」

「うわっ、きもっ。なんか語りだした。」

「お前なー、俺は親切で言つてるの。だから、服着て。」

なんで見ず知らずの電波女にこんなこといわれなきゃなんないんだ。  
まったく、理不尽すぎる。

「じゃあ服貸せよ。」

……よく考えれば、服など持つていなかつた。全部後で送られて  
くる予定になつていて。服着ろと言つておきながらないなんて…。  
十秒ぐらい俺は停止した。

すると女は、

「…そういうあんたの荷物、これしかなきそつだけど、服本当にも  
つてんの?ふふふ。」

またバカにしやがる。しかしそれは本当のことで、今日持つてきた  
のはお金とアレだけだ。他には何も…。

「後から運んでくる荷物の中にはいつてるんだよ。仕方ないから俺  
の服貸すよ。」

そういうつて上の服を脱いだ。

すると彼女は、「え、なんか、やだなー。」とほざきだした。

なんなんだ。腹立たしい女チャンピオンか。くそつ、王者の風格が  
漂つてるぜ。

「早くしろ。」俺はせかした。

「はいはい。着れば良いんでしょ。」

やはり服を着てもヤバい格好だ。外を歩いたら一発で捕まりそうだ。

「でさでさ、名前なんだつたつけ？？」

服を着た女は言つたしかも目を輝かせて。やっぱり可愛い。しかし  
ムカつくことには変わりない。

「片桐祐太だ。」

「平凡すぎて覚えられないから～、私が名前付けてあげる！」

とびっきりの笑顔で言われた。こうなると、悪い予感しかしない。

「じゃ～ねえ～、『タニシ』なんてどう？」

なんで俺が、メダカだか金魚だかの水槽にはりついてるような生物  
の名前つけられなきゃなんねーんだ。

本当にこれからどうなるのか…。もうこの時点で一週間分の体力を  
使い果たした…ような気がする。この腹立たしい女決定戦のチャン  
ピオン（王者の風格ただよう）をどうすればいいんだ。俺の孤独な  
戦いは始まつたばかりらしい。

## タンスから女（後書き）

お読みいただきありがとうございます（、 、 ）アリガト！  
初めての作品です。ダメな部分もたくさんあると思いますが、それ  
を言つていただけるとうれしいです。  
ご意見、ご感想、まつてます！

次回もよろしくお願ひします ーーー（ ^ ^ ）ー ブーン

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3361p/>

---

タンス少女

2011年1月8日20時07分発行